

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	末期がん患者に対する訪問リハビリの満足度調査 ～家族へのアンケート調査から～
演者名	大石奈央 1) 高橋友二郎 1) 堤内誠 1) 山中ゆかり 1) 大杉泰弘 1) 2) 本田宜久 1)
所属	1) 潁田病院 2) 飯塚病院総合診療科

目的

平成 22 年より福岡県で在宅支援病院として活動している潁田病院は月 200 人以上に訪問診療を行い、看取り件数も平成 25 年度は 64 件と年々増加している。リハビリ部門においても末期がん患者の QOL 向上に寄与するため積極的な関わりを開始し、平成 25 年 8 月より平成 26 年 9 月の間に訪問診療を行った 84 件の末期がん患者のうち 25 件の訪問リハビリを実施した。内容は環境調整、疼痛に対するリラクゼーションだけでなく、残された時間に本人が望む活動・生きがい形成を重視した。このような積極的なリハビリの関わりを患者・家族がどのように思ったかを知る目的で満足度を調査した。

方法

訪問リハビリを経験したことのある末期がん患者家族を対象にアンケート調査を行った。担当セラピストが自宅訪問し家族に説明の上、調査用紙を配布、後日返信用封筒で郵送にて収集した。

結果

主治医からの提案で訪問リハビリを開始しているため、訪問リハビリに対し信頼感がある家族が多かったが、開始してまもなくは本人がリハビリを受け入れてくれるかどうか、無理をしていないか等の不安があったという意見が一部にあった。しかし、リハビリを重ねていく内にその不安は解消され、むしろ家族以外とのコミュニケーションが楽しみになっているケースが多くみられた。

考察

訪問リハビリと関わる時間が長いほど満足度が高い傾向にあり、担当セラピストとの信頼関係を構築することが安心につながる。がん末期患者へ提供できるリハビリ日数が少ない中で、本人や家族との信頼を構築し、望まれている活動を実現するセラピストの能力が、患者・家族の満足度、ひいてはリハビリを通した QOL の向上に繋がると考える。